

幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づく自己評価

作成日 令和7年6月24日

法人名	園名
社会福祉法人愛の泉福祉会	愛の泉こどもの園
まとめ	
	全体平均 4.17
第2章第2節 乳児期の園児 の保育	入園の時期や発達の差が大きい乳幼児期だからこそ、一人ひとりの子どもの姿や気持ちを丁寧に受け止め、応答的で寄り添った関わりができるように心がけてきた。年度当初や入園当初は不安な表情で登園する子や保護者から離れられず涙を流す子どももいたが、日々の関わりを積み重ねる中で、徐々に園生活に慣れ、現在は安心して過ごす姿が見られている。
第2章第3節 満1歳以上満3 歳未満の園児 の保育	子どもたちは日々の園生活の中で、様々な人や物との出会いを経験し、その関わりや新たな発見にワクワクしながら目を輝かせている。まずは生活リズムを整えながら、特定の保育者との関わりを通して安定した園生活を送り、その後同年齢の子どもへの関心も高まっていくことができるよう努めている。来年度も子ども達がのびのびと自分を出せるような環境を整えていきたい。
第2章第4節 満3歳以上の園 児の教育及び 保育	保育者だけでなく友達との関わりも増え、気の合う友達と過ごす喜びや心地よさを感じているようだった。交友関係が深まった分、時には感情がぶつかり合う様子が見られることもあったが、必要に応じてどのような言葉を使うと気持ちが伝わりやすいのかなどを保育者も一緒に考えながらサポートしていく。これからも子ども達が自分を出したり相手を受け止めたりしながら周りとの関係を深めていけるような経験ができる
第2章第5節 教育及び保育 の実践に関わ る配慮事項	子ども達の自立に向けて、食事の介助や着替えの援助などの場面でどの段階まで、手を添えながら行うと良いのか、見守りと声掛けのタイミング、伝え方などについて見極めながら援助していく難しさを感じることも多かった。職員間で情報を共有し、チームで対応していくことで、様々な視点から見ることができ、より一人ひとりに合ったサポートをすることができるようになると感じている。今後も職員間で意見を出し合い
第3章 健康及び安全	子ども達が安全・安心して園生活を送ることができるよう感染症対策や災害への備えに継続して取り組んでいる。感染症発生時には、看護師を中心となりお便りや配信などを通して保護者へ情報を提供するなどして対応している。また避難訓練後には安全係の職員を中心に検証を行いながら訓練内容の見直しや改善を重ね、より安全な体制づくりに努めている。今後も職員間で共通理解を深め、迅速に対応できるよう取り組ん
第4章 子育ての支援	必要に応じて小児科や行政、学校や事業所など様々な関係機関と連携しながら、子ども達や保護者の悩みに寄り添っていくことができるよう心がけている。また、本園で開催している子育てサロン『チューリックラブ』を通して未就園児やその保護者が交流し、つながっていくことができるよう取り組んでいる。来年度も園内だけでなく子育てをしている地域の方々へも貢献できるよう努めていきたい。
第5章 職員の資質 向上	今年度は、それぞれの職員がどのようなことに悩んでいるのか、学びたいことなど確認しながら研修計画を立てできた。それぞれの研修での質疑応答の時間には、様々な質問や意見が飛び交うなど職員が意欲的に参加することができたのではないかと感じている。日々の業務との兼ね合いもあり、なかなか全ての職員で行う研修の時間の確保の困難さが現在の課題である。今後は研修期間や方法についても検討して行きたい。
総合	子ども達が、保育者や同年齢の友達との関わりの中で、安定した園生活を送ることができるよう様々な立場から援助を行なってきた。園で出会う物事への期待やワクワク感、自分で発見できたことへの喜びなど子ども達が抱いている気持ちを大切にしながら丁寧に寄り添っていくことができる園であり続けたいと考えている。そのために、職員間で細やかな情報共有を行いながら意見を出し合ったり、園内外での研修などを通じて学び続けたりしながら質の向上に努めていきたい。

データ表

内容	項目数	平均
「乳児保育」	14	4.21
「3歳未満児保育」	32	4.09
「3歳以上児保育」	52	4.15
「教育保育の配慮事項」	15	4.13
「健康・安全」	29	4.38
「子育ての支援」	18	4.17
「職員の資質向上」	9	3.89
計	169	4.17

